

第11回全国法人会女性フォーラム「福島大会」の報告

女性部会長 勝賀瀬 多恵子

平成28年4月14日（木）福島県郡山市のビックパレット福島で女性フォーラムが開催され全国から1,800名の女性部会員が一同に会しました。

会場1階には、小学生応募の「税に関する絵はがきコンクール」での優秀作品が展示されており女性フォーラム参加者は熱心に鑑賞していました。

第1部の記念講演会ではフリーアナウンサーの大和田 新氏が「伝える事の大切さ 伝える事のすばらしさ」と題し、約1時間30分で3人の実例について大変貴重なお話をされていました。その中の1人の内容は、東日本大震災の時の男子高校生の行動についてでした。地震発生後、その男子高校生は祖母を避難させるため海側に住んでいる祖母宅目指し急いでいました。途中で道に迷っている介護施設の集団に出会い祖母宅ではない逆方向の高台へと引率し終わると再び海側の祖母宅を目指し走って行ったそうです。ところがその途中で知り合いの後輩女子に出会い、その後輩女子を避難場所目指して引率中にバスと出会い後輩女子だけ乗車させて男子高校生は再び避難所とは逆方向の祖母宅目指して走り去ったそうです。次にその男子高校生が両親と会えた時は遺体となっていた。葬儀の時、お母さんは同級生がたくさん焼香に来てくれた事に大変驚いたそうです。その日、初めて何故自分の子供が死んだのか？疑問に思い辛い思いをしたそうですが、後日、自分の子供が家族以外を優先して避難させたのか少しずつ判り普段からもっと会話をしていたら良かったと後悔しています。とインタビューに答えられていました。そのお母さんより「普段の何気ない生活、当たり前と思っていた生活がどれだけ有難いか感謝の気持ちを持って大切に毎日を過ごしてください。」とメッセージがあったそうです。

また、未だに風評被害があり被災地からの生産物が消費者に受け入れられにくく、市場に出す場合、厳しい検査を受けて出しているの、スーパー等で生産地が被災地でも安心して買って頂きたい、そうして頂くことが被災地支援となります。とお話しされていました。

第2部の式典には、知事、市長など多数の来賓の出席を頂きました。その後、福島県単位会女性部会の社会貢献活動や租税教育について活発な取り組みの状況が会場スクリーン上で発表されました。

第3部の懇親会はフラダンスや福島県よさこいグループの踊りでにぎやかに開宴して四国内の方々と同じテーブルになり和気藹々な交流になりました。

翌日は、満開の桜を車中から鑑賞しつつ岐路につきました。